

岐阜県就農支援センター設置の目的

新規就農をするには、栽培技術や農地の取得、施設整備等が必要であり、行政、農業関係者、生産者組織等が一体となり支援することが重要です。

岐阜県では、このような支援体制を構築し、県下の各産地へ波及させていくためのモデルとして、平成26年4月に、冬春トマトの新規就農者を育成する「岐阜県就農支援センター」を設置しました。

施設名称等

名 称／岐阜県就農支援センター
所 在 地／海津市海津町平原1165
敷地面積／23,342㎡
運営主体／岐阜県
運営開始／平成26年4月

施設整備費

●平成25年度／156,647千円
うち補助金 60,000千円
(国事業名：新規就農・経営継承総合支援事業
(農業者育成支援事業))
●平成26年度／113,658千円

施設概要

- トマト独立ポット耕栽培研修ハウス／
3,456㎡(1,728㎡×2棟) 間口7.2m×6連棟、奥行40m、軒高3mを2棟整備
10a当たりポット数／2,400株 暖房機、ミスト、光合成促進装置、循環扇
- 土耕栽培ハウス／432㎡ 間口7.2m×3連棟、奥行20m、軒高3m
- 事務・研修棟／木造平屋建て 247㎡
- 作業棟／鉄骨平屋建て 126㎡



GAPへの取組み

同センターは、研修者や産地のGAP※1教育と普及を目的として、国際水準であるGLOBAL G.A.P.※2の認証を取得しました(平成31年4月11日)。

GLOBAL G.A.P.
The Global Partnership for Safe and Sustainable Agriculture
GGN4059883858372

※1 GAP(農業生産工程管理)

「Good(良い)」「Agricultural(農業)」「Practice(実践)」の略で、食品安全、労働安全、環境保全など持続可能な農業を実践すること。

※2 GLOBAL G.A.P.

ドイツに本部を置く非営利組織FoodPlusが運営するGFSI(世界食品安全イニシアチブ)により承認を受けた国際水準のGAPで、EUを中心に商取引に利用されている認証制度。



研修ハウス 3,456㎡(1,728㎡×2棟)



事務・研修棟